

福岡県議会議員(糟屋郡選出)  
とみなが

# 富永よしゆき 県政報告

2021年 月 日 時頃

ご挨拶に参りました。

一般質問:「コロナ禍におけるペットとの共生・適正飼養について」

主に、動物取扱い業者に対する罰則の強化と多頭飼育問題について

知事に質問しました。登壇日の9月21日は、動物愛護週間でした。

2021年11月  
Vol.9



## ●福岡県議会9月定例会が閉会しました。

県議会9月定例会は、9月10日から10月14日までの35日間の会期で開催され、補正予算議案4件、決算議案20件、条例議案10件、専決処分3件など合計54議案が上程されました。条例議案は、福岡県税条例の一部を改正する条例、福岡県個人情報保護条例の一部を改正する条例、福岡県暴力団排除条例の一部を改正する条例などでした。



↑採決の様子(県議会本会議場)

10月1日からの「決算特別委員会」での議案審査を経て、定例会最終日の14日に上程された事業者向け月次支援金給付のための補正予算を加えた補正予算等21議案の議決が行われ、いずれの議案も可決されました。今議会では、合計55議案、コロナ対策や災害対策等に要する補正予算総額1,390億円が可決されました。福岡県では、4月からの6ヶ月間で計14回の補正予算が可決されています。

コロナ禍での多くの課題に対して、様々な視点で各議員の質疑が行われました。私も地元の方のご意見やご要望をもとに一般質問、決算特別委員会で計3度質問に立たせていただきました。(詳細は中面に記載します。)

## ●所属会派(民主県政クラブ)の代表質問概要

当選同期の中嶋玲子議員(朝倉郡・朝倉市選出)が以下の項目で知事並びに教育長に質問をしました。

### 【代表質問の主な項目】

- 1.県政推進の基本姿勢について
  - ①次期総合計画と財政問題について
  - ②頻発する災害への対応について
  - ③新型コロナウイルス対策について
- 2.バス送迎を行う保育施設での子どもの安全について
- 3.ジェンダー平等について
- 4.教育機会確保法と不登校児童生徒の支援拡充について
- 5.九州北部豪雨からの復興とまちの再生について



### 【主な答弁(要旨)】

質疑は動画でご覧いただけます。→



1-①総合計画や行政改革大綱に感染症対策も含める行政サービスの向上と財政健全化の両立が必要

1-②流域治水事業の推進

　　・営農継続へ収入保険制度の加入促進  
　　・湛水しない農地の斡旋

1-③自宅待機者への生活支援の充実を図る

　　・酸素投与ステーションを設置する  
　　・感染した妊産婦への的確に対応をする  
　　・保健所機能の強化すべき内容を検討する

2-県独自の安全管理指針を作成し、指導監督を行う

3-本県として導入に向けた検討を行う



22世紀につながる県政に! 糟屋郡7町の未来に全力トライ! 古い政治に強烈タックル! >>

# (コロナ禍での)ペットとの共生・適正飼養について

一般質問:9月21日(火) ※9月20日~26日は、本年の動物愛護週間でした。

## 全国で犬が約58,000頭、猫が約67,000頭 増加!

(※社団法人ペットフード協会調べ)

2020年に新規飼育者によって、飼育開始された犬猫の頭数は前年に比べて、12万頭超も増加したと推計されています。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で在宅時間が長くなったことや、長引く自粛期間に、人々が犬や猫を癒しの対象として新たに、飼育を始めたことが要因だとされています。緊急事態宣言の対象地域に4度指定された福岡県においても、新たに犬や猫を家族に迎えた方は、多いものと推測します。

また、長野県松本市では、本年9月に犬約1,000頭(届出数600頭)を劣悪な環境で飼育していた疑いで販売業者が警察の家宅捜索を受けています。ペットブームの再来で届出以上に過剰に繁殖・飼育をしている業者や新たに犬猫を飼い始めた飼い主が増加したことで新たに犬猫をめぐるトラブルや社会問題が顕在化、深刻化するのではないかとの考え方から今回の一般質問をするに至りました。



※動画でもご覧頂きたいです。



壇上で知事に問い合わせる富永  
(議会事務局提供)

## Q.1 知事の「動物愛護」に対する基本的認識について

富永: 人々のライフスタイルの変化とともに、動物愛護の考え方も大きく変化してきた。今後、動物愛護管理行政についても、対応が変わってくるものと考えるが動物愛護に対する知事の認識は?

知事: 動物は人にとってかけがえのない存在。一方で、安い飼養や遺棄、虐待、悪質な業者による販売など、解決すべき課題がある。県では、第3次動物愛護推進計画に基づき、適正飼養の普及啓発や譲渡の促進などの取り組みを進め、人と動物が共生できる社会の実現を図る。

## Q.2 悪質な犬猫販売業者に対する県の対応について

富永: 福岡県で2013年度から2019年度の間に犬猫等販売業者に立ち入りを行った件数は、のべ2,181件。

これに対して、「業務停止」と「登録取り消し」の処分はいずれも0件。改正動物愛護管理法や4月に施行された環境省令を機に、今後は悪質業者に対して厳しく対処すべきだと考えるがいかがか?

知事: 本年4月の改正で、基準が明確化されたことから、勧告、命令、取消等の判断が客観的にできるようになりました。違反している業者に対して、厳正に対処していくことにより、犬猫の適正飼養を推進する。

## ✿✿✿✿～富永の動物愛護に対する思い～✿✿✿✿

富永は、動物病院の長男として生まれ、犬猫に囲まれて育ちました。自身も獣医師を志しましたが、その夢は今日も叶っていません(父、弟は獣医師)。会社員時代に、行政や獣医師会等が催す動物愛護の啓発イベントの運営に携わったことがきっかけで、政治分野で動物愛護を推進していきたいと強く思うようになりました。

人々の生活スタイルが変化し、人間と動物の距離が縮まる中、「人獣共通感染症」の問題が再び注目されています。「ワンヘルス」の推進を掲げる福岡県で人間と動物の健康、共生や地球環境の保全について、今後も取り組んでいきたいと考えています。まずは、身近な犬猫をはじめとするペットから!



(※議員になる前、2018年に古賀市の県動物愛護センター訪問時の写真です。)

## Q.3 多頭飼育問題に対する認識と未然防止策について

富永：従来、高齢者世帯の問題として扱われてきた「多頭飼育崩壊」。コロナ禍で経済的な困窮や社会的な孤立が深刻化した。世代を問わず、どの飼い主にも起こり得る問題として考えるべきだ。今後、深刻化するのではないかと危惧するが県の対応策は？

知事：多頭飼育は動物の飼養環境の悪化を招き、動物虐待となるおそれがある。また、悪臭や騒音の原因となり生活環境の悪化を招き、近隣住民とのトラブルも懸念される。

多頭飼育を早期に発見し、未然に防止する  
ことが重要。高齢者のトラブルを未然に  
防ぐため、昨年度から、介護関係職員等  
を通じて、高齢者に対する適正飼養の  
啓発を行い、必要に応じてアドバイザー  
を派遣する事業を実施している。多頭  
飼育問題が生じる背景として、生活困窮  
や社会的孤立等があり、社会福祉的支援  
が必要な飼い主が多いと言われている。

今後は、高齢者だけでなく、生活困窮者や  
社会的孤立者と接する機会が多いケース  
ワーカーや民生委員等の社会福祉関係者  
と連携し、多頭飼育問題の未然防止対策を図る。



(出典：環境省ホームページ)

詳細はこちらから→



## 多頭飼育崩壊の未然防止策について知事に要望したこと

- ① 悪質な業者や飼い主に対して厳正な指導、処分を！  
県警察等と連携して、ネグレクトをも含む動物虐待は絶対に許さないという県の強い姿勢を示すこと。
- ② 市町村（職員）の業務の実態調査と必要な支援を！  
例えば、人口3万人規模の自治体では、所管の環境課や福祉課の担当職員は2名程度。現場の対応にあたる市町村職員の皆さんのが働き方や業務量についても考慮した上で、多頭飼育問題の対策を行うこと。
- ③ 動物愛護団体やボランティアの方に対しての支援の充実を！  
地域で自ら活動費を捻出して、命を繋ぐ大きな役割を担ってくださっている方々にも、新たな感染症予防に関する情報や備え、その他必要な支援が適切に提供される体制づくりを行うこと。



「ワンヘルス」とは、人の健康、動物の健康、環境の保全は1つという考え方のもと、人と動物、そしてそれらを取り巻く環境が直面している様々な課題に対して、医師や獣医師、研究者だけでなく、行政や企業、市民も一緒にになって解決していくこうという社会活動です。

出典：公益財団法人 福岡県獣医師会  
ワンヘルスのこれまでこれから



### 【視察記】ペットのお見送り・樹木葬 施設（篠栗町若杉地区）

先日、ペットの葬儀場を訪問しました。担当の松尾さんから、昨今のペットの葬儀事情やお別れの場での飼い主の方のご要望や思いを様々なに聞かせて頂きました。犬猫をはじめ、ペットがペット以上の存在になっていること、家族の一員であることを再認識しました。



ヤマザクラ『最会の樹』は  
最愛のペットと再会する場



糟屋郡や福岡市内、博多湾を望む  
待合スペース



松尾さんの前職は葬儀社社員。  
丁寧な話し方に人柄を感じました。

# 糟屋中南部における交流農園プロジェクトについて

決算特別委員会:10月1日(金) 企画・地域振興部(広域地域振興課)所管分



※詳細はコチラ↓



## ※糟屋中南部「交流農園プロジェクト」とは…

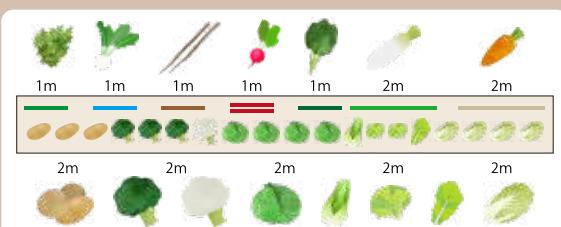
- ・県の広域地域振興課所管の「広域連携プロジェクト」58事業の1つ。
- ・糟屋中南部…糟屋郡の7町のうち、新宮町を除く地域。新宮町は糟屋北部に含まれます。
- ・粕屋町(酒殿)、篠栗町(乙犬)、久山町(猪野)で実施される体験農園のこと。(粕屋町は休園中)
- ・平成22年~25年に各町や県からなる構成団体で立ち上げたプロジェクト。
- ・現在は農園主の自主運営。県、町ともにホームページで告知、参加者募集を行うのみ。

※コロナ禍の影響により、利用者は増加している。



## 『交流農園体験談』

私も、1畝(2m × 10m)を月5,000円で借りています。毎月1回、若手農家の方から様々な講習を受けます。種や苗、農機具等は準備されており、好きな時に手ぶらで畑に出かけます。この半年で15~20種の農作物を栽培し、収穫しました。交流農園は、いつも多くの方で賑わっています。私も毎回、楽しみに子どもたちと参加しています。SNSで投稿したところ、反響が大きく、体験農園にあらゆる可能性を感じています。



↑栽培している野菜の作付け図面(秋~冬)



↑夏に収穫した野菜



↑親子3人で定植

## 【富永の質問の概要】

コロナ禍で生活様式が一変した。アウトドアや家庭菜園等も盛況になっている。プロジェクトを社会の変化に応じて進化させ、地域の特性を最大限に活かしながら、**県庁内の各事業部局との連携(具体的には以下、例示)**が効果的だと考える。更に、県庁職員の皆さんのがんばりや生産性の面からも新たな挑戦が必要だと考えるが部長の考えと今後の決意を問う。

## 【企画・地域振興部長の答弁】

自治体や地域の団体、NPOなどが連携して、先導的で先進的なプロジェクトに取り組むことは、地域の活性化に大変重要なことだ。その取り組みの更に新しい展開に向け、関係者が様々に模索し、努力することは、大いに意義がある。**県としても、しっかりと府内の連携を図り、このようなプロジェクトの新たな展開を支援してまいります。**

## 富永が考える新たな展開！

### 交流農園プロジェクト(企画・地域振興部)

#### ✓ ① 農林水産部

- 農家の新たな収入確保策としての調査研究
- 新規就農者の発掘事業
- 販路開拓・拡大・新規事業へ発展を支援  
(直売所、加工所、農家レストランなど)
- スマート農業の先進地としての取り組み支援

#### ✓ ② 商工部

- 6次化(ブランド化)及び販路の開拓
- ポストコロナの観光需要獲得施策  
(マイクロツーリズム及びインバウンドの再獲得策)

#### ✓ ③ 教育委員会

- 地産地消の推進(食育) →こども食堂との連携
- 放課後や休日の居場所づくり(農地や農業の活用)



富永芳行(当選1回・38歳)

- 農林水産委員会(委員)
- 再生可能エネルギー等調査特別委員会(副委員長)
- JR九州福北ゆたか線沿線活性化促進議員連盟(副会長)
- 県立福岡高校→早稲田大学→(株)博多大丸→立憲民主党
- 妻、長男(7)、長女(3)と篠栗町乙犬に在住



## 22世紀につながる県政に！

福岡県議会議員 富永よしゆき事務所

〒811-2412 福岡県糟屋郡篠栗町乙犬678-1

☎092-931-5726

<https://t-yoshiyuki.jp> ホームページはこちら▶

